

私の癒し系

かずまる父



四国旅客鉄道株式会社が世界に誇る制御振子式気動車 2000 系は松山～宇和島間約 100 キロの通勤を可能にしました。その一方で、所要時間短縮を追求した結果、居住性が極限まで無視された馬車馬の如き車中で、ひたすら耐えている方々も多いと思います。

そんな馬車馬ストーリーのささやかな楽しみは、週末に「快て一き」を利用して、適当な駅まで行って、そこから気ままに歩き、たどり着いた駅から列車で家に帰る、そんな小さな旅を楽しむことです。

日常の喧騒から離れて、一日中楽しめて、環境にやさしくて、なんと言っても、交通費はゼロ。



現在の目標は、「南予再発見」と勝手に称して、小学 3 年生の子供を連れ、松山から宇和島までを 15 回シリーズで鉄路に沿った道約 120 キロを歩くことです。長大トンネル内を歩くのは危ないので、犬寄峠、夜昼峠そして笠置峠を越えて、先日ついに卯之町駅へと到着しました。この後、最大の難所、法華津峠が待ち構えています。

子供が相手をしてくれないときは、「南予再発見・単独行軍」と称して、次の週末は何処へ行こうかと思案する今日この頃。

ちなみに、薄々お気づきでしょうが、子供は単にダシに使っているだけであって、私にとっての「癒し系」とは、列車の旅そのものであることを申し添えておきます。